

# 関東龍門会報

〔〈旧制〉加治木中・加治木高女・加治木高校同窓会〕

発行人

会長 塩村 朱美

発行元 関東龍門会 事務局

HP [www.ryumonkai.com/](http://www.ryumonkai.com/)

幹事長 海江田 健司 (〒179-0083)

東京都練馬区平和高台4-12-17-202

〈メールアドレス〉

kenji\_kaieda@sonylife.co.jp

## 《令和3年、総会(懇親会)中止のご案内》

### 高校生生活を終え 羽ばたく想い

◎ 中尾 颯吾さん (令和03年卒・高73期)

新型コロナウイルスが猛威をふるい続ける中、先生方のご尽力により無事卒業式は執り行われ、私の高校生生活は幕を閉じました。第73期生として卒業した私は自分の夢を追って春から筑波大学で勉学に励みます。

私は幼い頃からずっと宇宙飛行士になるという夢を持っており、高校1年生の時には、JAXAの見学ツアーにも参加しました。しかし、そんな私が全力で取り組んだのは、宇宙ではなくトロンボーンでした。入学直後、幼馴染に誘われるままに吹奏楽部に入部した私は、楽器初心者としてすぐさま部活動の洗礼を受けました。朝は早く、移動は素早く。黙々と掃除をし、周りに目を配り、常に目的意識を持つ。一見演奏に関係なさそうなことでも、取り組むとみるみるうちに私たちの音楽に変化が現れました。「すべての練習に意味がある。ひとつひとつの点がつながって線となる。」これが先生の口癖でした。私が部活動で学んだことは、楽器の演奏だけでなく社会での生き方に役立ち、これからの私の人生の軸となることを確信しています。



いきました。しかし、状況は一変しました。新型コロナウイルスは、高校生活のたく

さんの思い出を奪っていききました。中止、中止。吹奏楽コンクールも、海外派遣も、各イベントも。みんな薄々わかってきたことでした。それでも、先生方は私たちに悲しい思いをさせまいと様々な対策を講じて、イベントをできる限り減らさないようにしてくださいました。私たちも、互いに励ましあったり全力でイベントに取り組んだりすることで何とか乗り越えることができました。清新洗刺、質朴剛毅、堅忍不拔の校是の意味を、改めて、深く理解した一年でした。

そうして立ち上がった私たちは、それぞれの進路を見つけ勉学に励み、この春飛び立ちました。私もその中の一人です。吹奏楽部を急遽引退することになって、輝きを失った私の瞳に火をともしてくれたのはほかでもなく友達であり、先生であり、親でした。感謝の思いは尽きません。新型コロナウイルスはまだ完全に収束していませんが、これからは加治木高校で得た強さとやさしさを胸にどんな苦難でも乗り越えていこうと思います。

最後になりますが、同窓会の方々のご支援でたくさん経験ができたことにも感謝しています。先輩方が私たちを支えてくださったように、私たちも関東龍門会の新たな一員として後輩たちを支えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

## 〈令和3年総会中止のお知らせ、及び、会費納入、ご寄付のお願い!!〉

今年こそは、会場を押さえ、体温測定、ソーシャルディスタンスシグ、食事の方法等工夫を加えて、安全な総会を開催すべく努力してまいりましたが、本部総会中止の決定に加え、諸般の状況を鑑み、残念ながら今年も中止の決定やむなきに至りました。

去年は多くの方々に会費納入、ご寄付を賜り、心より感謝いたしております。ありがとうございました。今年も心苦しくはございますが会費納入に添えてご寄付を賜ると、会の運営の励みになります。くれぐれもご無理のない範囲でどうぞ宜しくお願い致します。会費及びご寄付をお送りくださった方々にはもれなく、お礼状に添えて、加治木高校同窓会誌「龍門」(今年は豪華カラー刷り!)をお送り致します。

次年度こそは、コロナ後新装関東龍門会総会で、心身共に健やかな皆さまとお会いできる事を心よりお祈りいたします。

関東龍門会会長 塩村 [久永] 朱美 (昭49年卒・高26期)



よろしく  
お祈り  
いたします

会長あいさつ



長門会 会長 朱美 塩村 (旧姓久永) (昭49年卒・高26期)

時空を超えた同窓生の交流

会に携わるようになって良かった事に、「良き人との出会い」があったと前年度の会報に書きましたが、例をあげます。

御歳101歳の吉満肇、大先輩を知りました。会長就任を寿ぐとても嬉しいお手紙をいただいた後、何度か手紙のやり取りをして、すっかりファンになりました。北欧旅行の思い出を実に楽しそうに、失礼を顧みず言わせていただければ、まるで、少年のように「書かれています」。

アムステルダム中央駅を訪れた。びっくりした！東京ステーション駅とそっくり同じ！聞くと、東京駅がここを真似て作られたのだそうだ。

古代ローマ時代の素晴らしい水道橋を見た。びっくりした！建築されてから2000年。それはとても信じられなかった！目を大きく見開いて、一つ一つの物事に驚いたり、感動したりなさっている先輩のお姿が生き生き想像できてこちらまでウキウキ笑顔になってしまいます。

戦争の辛い経験もお聞きしました。これは以前の会報(注)にお書きになっているので割愛します。

未だお目にかかった事はありません。

コロナという流行り病のせいで、いつお会いできるかもわからないし、同調圧力は

息苦しいし、報道と現実との乖離を益々強く感じるこの頃、憤る事も絶望的になる事も多いのです。しかし精神は自由です。どこへでも飛んで行けるし、時間を遡ることも未来に馳せることも出来ます。

この会報に寄稿してくださった大迫さんのように音楽を通して深いメッセージを届けてくださる頼もしい若者(私にとってはとても若い!)もいらっしやいます。音楽って本当に不思議ですね。

空気に束縛されず、ブレること無く、そして、世の中は確実に良い方向に向かっていくと信じていたいのです。

〈略歴〉

塩村 朱美(旧姓久永) 49年卒業・高26期、

青山学院女子短期大学国文科卒

子育て後 学士習得

資格 英検一級

趣味 読書 ベリーダンス 中国語学習

特技 足で鶴を折ること

(注) 吉満肇先輩の寄稿(平成26年度関東龍門会会報「知れせざる太平洋戦記」)は、関東龍門会ホームページ(<http://ryumonkai.com>)に掲載しておりますので、是非ご覧ください。

NEWS! & 加治木高校 TODAY



『社会人生活1年目を過ごして』

平成26年卒(66期) 林 拓真

《この文章は、令和3年3月27日に書かれたものです》

2020年3月末に大学を卒業し、建設

企業に入社してからおよそ1年が経ちました。私たちの代は、コロナウイルスの影響により入社式や入社時集合研修が中止になり、しばらくは自宅でオンライン研修を受けるという、とてもイレギュラーな社会人生活のスタートを切りました。社会人になったにも関わらず、自宅にこもって勉強する不思議な数か月間を過ごした後、7月によりやく初任地である宮崎の現場に配属され、施工管理という本来の仕事が始まりました。実務的な研修は一切受けずにいきなり現場デビューした私たちは、最初とても苦労するといわれていましたがまったくその通りで、例年の1年目ならできるはずのことができません、失敗だらけの日々でした。また、日曜も資格の勉強で通学していたため、休みの日はまったくない、これまでの人生の中で最も忙しい怒涛の数か月間を過ごしました。最近では多少落ち着いた生活を送っていますが、まだ顔を合わせたことのない同期達や、4月から入社する後輩達に負けないよう、日々一生懸命学びつつ、働いています。

そんな社会人1年目を過ごして感じたことを書きます。それは、働き方改革によって短くなる勤務時間で、私は十分なスキルを身に付けることができるのか、という不安です。今、私の職場では、2024年4月から短くなる残業時間限度を守るため、早く仕事を切り上げて帰ろう！残業時間を減らそう！という流れがきています。働いている時間が減ること、プライベートの時間が確保しやすくなり、よりよい私生活が送れるようになると思います。しかし、私は、短くなった勤務時

間で、はたして先輩方と同じように成長できるのか、十分なスキルを身に付けることができるのか、と疑問に思っています。この業界は10年働いてようやく一人前になれるとよく聞きます。〇年目ならこれができて当然、といったことがその年目できなかつたり、一人前になるのに12年、13年かかってしまつたり、となるかもしれません。また、会社からは、そうならないように効率よく働き成長することが求められており、その期待に応えられるかも少し心配に思います。

このような不安もありますが、全体を通しては非常に有意義な社会人生活を過ごせました。長い学生生活が終わり、ようやく独り立ちした私ですが、これまでの恩を返せるように立派な大人になりたいです。最後に、コロナ禍で大変な状況ですが、関東龍門会の皆様、およびご家族の皆様が健康に過ごされますことをお祈りいたします。



〈林拓真さんは、東工大↓同大学院↓大成建設。過去4回開催の国内派遣事業「龍門の樫」では、毎年サポートしてくださったメンバーの一人です。社会人2年目を迎え、今後のますますの活躍が期待されます〉



# 「加治木高校の近況報告」 「コロナ禍にあっても 常に鍛えてたゆまざる加高生」

加治木高校校長 川原 裕明



大変ご無沙汰をいたしております。校長の川原でございます。一昨年は関東龍門会に出席させていただき、皆様と楽しい時間を過ごすことができました。中でも私事になりますが、父の同級生の方々と直接お話しすることができ、とても嬉しかったです。昨年も是非参加を……と考えておりましたが、新型コロナウイルスの拡大により中止となり、皆様とお会いする機会がなくなってしまう、大変残念でした。

さて、今年度は同窓会の120周年記念事業の一つである国内派遣事業が実施できませんでした。その予算100万円を新型コロナウイルスの拡大により経済的に影響を受けた生徒の支援に充ててはどうかとの同窓会役員からのご提案を受け、新たに奨学制度を設けたところでした。また、その話を聞いた関東龍門会でも趣旨に賛同していただき、20万円の寄付をいただきました。1人あたり5万円で、複数回申請可という形で募集をかけ、結果的に当初の予算をオーバーする人数の申請がありました。おかげさまで希望者全員に奨学金を支給することができました。本当にありがとうございます。

ございました。

ところで、学校の方も新型コロナウイルスの拡大の影響を受け、さまざまな教育活動が当初の予定どおりにはいきませんでした。密を避けるために、例年であれば多くの保護者に見てもらおうと体育祭や文化祭も生徒のみで実施し、先日行った卒業式も卒業生とその保護者のみ(それも人数制限あり)での実施となりました。その他にも、2年生の修学旅行が12月に関東方面へ行く予定でありましたが、変更に変更を重ねて最終的に県内1泊2日での実施となりました。なお、この修学旅行では、東京で活躍の本校OBで声楽家の馬原裕子さんに鹿児島までお越しいただき、ミニコンサートしてもらいました。生徒たちにとって、一時は「もう修学旅行はできない。」とあきらめていた修学旅行ができたうえに、プロの歌声を身近に聞けたことには感動したように、良い思い出の1ページになったことと思います。

様々な制約がある中で、先輩達から受け継がれてきている文武両道を果たそうと、日夜生徒たちは頑張っています。部活動において、新入大会で上位入賞し、九州大会まで進んだ部がいくつかあります。また、卒業した3年生も見事に文武両道を果たし、中には目標としていた医学部医学科や薬学部などに合格する生徒も出ています。とても頼もしい限りです。と同時に、その姿を間近で見えてきた1・2年生がこの伝統を引き継いでいってくれるものと確信しております。この4月には、同窓会誌「龍門」が発行されると聞いております。その中で紹介されますので、楽しみに待っていてください。

それでは、今後とも母校の発展にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。とともに、皆様のこれからのますますのご健勝と、一日も早く皆さんが一堂に会して親交を深められる日が来ることを祈念いたしまして、学校の近況報告とさせていただきます。

以下、川原校長より頂きました、在校生の高校生活の一部をご紹介します。



職員室前の廊下で数学の質問にきた生徒



部活動練習風景(弓道部)



体育祭 3年生応援団

部活動練習風景(男子ハンドボール部)  
男子ハンドボール部は県新人大会2位





### 国内派遣事業「龍門の櫂」再開の方向へ！

母校創立120周年に当たった同窓会記念事業として2017年にスタートした国内派遣事業「龍門の櫂」(2016年は、関東龍門会企画によるプレ実施)。プレ実施から2019年までの4年間で、計27名の後輩たちが上京し、成長のきっかけとしてくれました。

新型コロナウイルス感染拡大により、昨年の実施は残念ながら中止となったことは、皆様もご承知の通りであります。コロナ禍の終息には多くの見解もあり不透明感はなくもない中ではありますが、国内派遣事業「龍門の櫂」の再開の検討が、同窓会及び学校の間で始まっており、関東龍門会会長宛に相談をいただいております。

コロナ禍終息が順調に進む前提で、2学期前半に本事業の再開を目指しております。実施期間や参加人数、旅程等については今後、同窓会及び学校と調整していくこととなります。何よりも、本事業の実施が許される社会環境に至ることが必要です。諸条件が整う限り、関東龍門会は後輩たちの成長の一助となる活動を行いたいと考えます。

国内派遣事業「龍門の櫂」の再開について進展がありましたら、ホームページに掲載して、会員の皆様にお知らせいたします。

文責

(昭和55年卒・高32期)

西迫 宏文

### 『社会人生活1年目の抱負』

#### 「龍門の櫂」参加を経て

平成29年卒(69期) 吉村 謙吾

この文章は、令和3年2月28日に書かれたものです。はじめまして。国内派遣事業でお会いした方はご無沙汰してます。私は加治木高校69期卒業生で、鹿児島大学法文学部卒業予定の吉村謙吾と申します。部活は野球部に所属しておりました。まず今回このような文章を書かせていただく機会をくださりありがとうございます。

私は高校3年生の時に国内派遣事業にて東京で働いていらつしやる先輩方を見学させていただきました。その時の感想といたしましては、どの先輩方も社会人として堂々と仕事をされているということが一番感じたことでした。自分の仕事に対して誇りを持っており、未熟な私たちに真摯に説明してくださる姿を見て、先輩方のような社会人になりたいと思ったことを昨日のことのように覚えております。また、その時に案内してくださった当時大学生だった先輩方にも大変お世話になりました。その節はありがとうございました。その高校時代では野球部で副主将、



副主将、応援団でも副団長を勤め、大変充実した高校生活を送りました。大学生活ですが、学業面では主にマレーティングについて学ぶ

ゼミに所属し、実際に販促コンペに投稿したり、鹿児島県の伝統工芸品である大島紬協会と連携して、大島紬のビジネスについて半年間考えたりと様々な活動を行いました。また語学研修の一环でアメリカに行きました。(尚、英語はほとんど話せず、パッションとボデイランゲージで乗り切りました。)サークル活動では、ソフトボールサークルとボランティアサークルに所属しました。どちらも貴重な時間を過ごすことができましたのですが、大学生活で一番時間を注いだボランティアサークルの話をします。活動内容は、障がいを持つ方とそのきょうだいで月に1度、学生が考えたプログラムを通して交流を図るというものでした。大学生になるまで、障がいを持つ方と深く関わることがなかったのですが、この活動を通して、他人のことを第一に考える行動を取ること、相手の意図を読み取ることなど人間として大きく成長ができたと思います。また様々な人脈形成もでき、非常に充実した大学生活を送ることができたのではないかと考えています。

そんな学生生活ももうすぐ終わりを迎え、いよいよ社会人になる一歩前まできました。現在、新型コロナウイルスという未曾有の事態の中、どんな世の中が変化している状況となっております。このような変化が激しい世の中で何が正解かを見つけていく力を身につけていきたいです。

さて、今回私が就職することになった会社はECカードベンダーである「W2ソリューション」という会社です。11月から内定者インターンをリモートで始めており、少しずつ業務の方にも取り組ませていただいております。鹿児島から旅立つ不安と新社会人になるという期待が入り混じっておりますが、今まで育ててくれた両親と一緒に過ごしてきた友人、先生方に感謝して鹿児島から上京します。

最後に、社会人になる意気込みとして大

事にしたい  
きたいこと  
は「私に関  
わる人のす  
べてを幸せ  
にしたい」  
ということ  
です。大変ハードルが高い目標だと思いますが、挑戦しなければ誰でもできるので、全力で仕事に取り組みしていきます。右も左もわからない未熟者ですが、先輩方に少しでも近づけるよう、そして後輩に還元できるように、一生懸命に働いていきますので、どうか応援してくださいと幸いです。これから関東でお世話になりますので、何卒よろしくお願いたします。



### “あの人”を訪ねて

音旅(おとたび)演出家®・ヴァイオリニストとして活躍の大迫淳英さんに寄稿しました。

#### 大迫淳英さん(平成4年卒・高44回生)

〔略歴〕福岡教育大学総合文化科学課程芸術コース音楽専修を卒業後、イタリヤ・ミラノ、チエコ・プラハまたルーマニアで研鑽を積む。皇太子殿下ご夫妻(現今上天皇・皇后陛下)の御前において演奏。

またベルリン・フィルヴァイオリン・アンサンブルの日本ツアーにソリストとして出演。

これまでにJR九州クルーズトレイン「ななつ星九州」の音楽演出をプロデュース。現在は東急「THE ROYAL EXPRESS」の演出プロデュース、またJTBロイヤルロード銀座夢の休日「感動の響き」アンパサダーとして誰も体験したことがない新しい世界を創生。



【音楽からはじまる旅】

「旅」。だれしも心に深く刻まれている旅がありますね。ふと心に蘇ってくる景色。皆さんの目の前にはどんな光景が広がっていますか？。

その旅の記憶にBGMが流れていたらどうでしょう！

よく「五感で愉しむ旅」というキャッチフレーズを目にしますが、旅は本当に五感で感じているのでしょうか。「目」で観る観光、「味覚」で楽しむ食事、「肌」で感じる温泉などアイテムはありながらも「耳」から感じる「音楽」はなかなか無いですよね。映画に例えると、これまで皆さまが経験された「旅」は、音楽が無い映画を観ているようなものだったのかもしれない。映画も音楽があることで迫力が増し、感動を呼び起こされるので音楽は重要。

また、想い出の曲を聴くとその時の情景が鮮明に思い出されますよね。音楽には記憶を呼び起こす力、そして記憶に残す力があるのです。

「旅」を「音楽」で彩り、さらに感動的な旅に仕立て上げるのが「音楽演出家・ヴァイオリニスト 大迫淳英」なのです。



私は、加治木高等学校を平成4年3月に卒業し、現在「旅と音楽」をテーマに音楽演出家®として活動しています。まだ誰もやったことのない新しい世界を開拓して行く仕事です。

道なき道を歩んでいる真っ最中。

その活動のきっかけとなったのはJR九州クルーズトレイン「ななつ星in九州」。それ

までなかった新しい旅のカテゴリーと価値観を生み出した「ななつ星」。その列車の旅を音楽で彩るプロデュースをさせていただいたのが「音楽演出家®」としての私のルーツです。この豪華寝台列車の企画段階からアドヴァイザーとして携わり、列車に搭載するピアノの選定、プレス発表の台本や演出、車内のエンタテインメントの構築を担当。そして実際に列車に勤務しお客様に音楽を届けてきました。私が企画した演出は「音楽」だけでなく、マジックや写真、映像を駆使した総合的な形に仕上げました。ななつ星という舞台で練り上げられる（お客様が主人公の）ドラマを創り上げるような演出です。そのドラマには音楽が不可欠。「ななつ星」のテーマ曲から旅は始まり、お客さまからのリクエストいただいた曲を車内でさりげなく演奏します。それが主人公であるお客様のBGMとなるのです。

ななつ星の話しを語り始めると、会報のページが足りなくなるので、またいつかどこかで。笑  
2013年の運行開始から2018年2月まで498回目の運行まで「ななつ星in九州」のオペレーションを担当しました。そのうち最初の305回目までは連続してすべての運行に勤務（3年半）。乗務中は寝泊まりも列車の中なので、年間200日以上ななつ星の車内で「暮らしていた」ことになりました。  
現在は東急「THE ROYAL EXPRESS」の演出をプロデュース。「美しき、煌めく旅。」というコピーやコンセプトを作成し新しい旅を創生。

また、JTBロイヤルロード銀座 夢の休日「感動の響き」アンバサダーとして、これまでになかった「音楽が寄り添う旅」を造成しています。「ななつ星」で創り上げた旅のエッセンスを、列車の中だけでなく、日本へ、世界へ、広げて、これまで誰も体験したことになかった旅を創り上げるためです。

私が企画するJTBロイヤルロード銀座 夢の休日「感動の響き」ではオーダーメイドで旅を組み立て、出発からお客様だけのため

のBGMでサポートし、私がすべて同行してプライベートコンサートなどを楽しみながらオンリーワンの旅を創ります。まさに「音楽が寄り添う旅」。ななつ星と同様、音楽だけでなく写真や映像を駆使します。

そして、この2020年から2021年の年越しにまた新たな可能性が広がりました。これまでは「旅」を音楽で彩ってきたのですが、初めて「音楽から始まる旅」を実現させたのです。

その切っ掛けは2020年10月にリリースしたCD「雪光風火」（富山県「榊田神社」の四季をテーマにした組曲）。このCDを聴いた方々から「是非、榊田神社に行ってみよう」という声が多数上がったのです。そして、榊田神社で「雪光風火」を聴きながら年越しをするという音楽の旅をJTBロイヤルロード銀座で企画・催行。大晦日12月31日23時から拝殿で演奏を奉納する形で「雪光風火」をお客様に聴いて頂き、0時、新しい年を迎えると同時に、特別参拝をしてもらうスペシャルな内容。すべて私がアテンドし、元旦には併設されているステンドグラス美術館でニューイヤークンサートを楽しんでいただくプラン。雪で一面真っ白になった銀世界での神秘的な旅となりました。

（このCD「雪光風火」、加治木高等学校の出身で私の後輩にあたる宮川真緒子さん（旧姓・内木場さん）が富山県の榊田神社に嫁がれ、そのご縁で依頼をいただき創ることになった作品です。）これらの作曲は中原達彦さん。私がプロデュースイメージを中原さんに伝え作曲。そして私が演奏するというのが定番のスタイル。これまでに50曲も新作を制作。いつでも、あなただけの新しい曲を創りますよ。笑  
新型コロナウイルスの影響で思うように旅が出来ない状況。しかし旅に行きたいですよね。  
逆に今だからこそ出来る旅「音楽で旅をする」プランを計画中。完全にソーシャルディスタンスを保った安心プランをJTBロイヤル

ロード銀座でお届けする準備を整えています。みなさまを心で感じる「音楽の旅」へご案内します！

【活動のご紹介】

鹿児島にゆかりのある大迫淳英の活動として「始良ふるさと大使」「本場大島袖大使」を委嘱され鹿児島島の魅力を発信。「鹿児島マラソン公式サポーター」を務め鹿児島マラソンのテーマ曲、「城山ホテル鹿児島」のテーマ曲のプロデュースなどを手掛ける。また加治木高等学校の卒業生で現在KBC九州朝日放送の野村友弘さんとのご縁で、彼がプロデューサーを務め福岡の朝一番の視聴率を持つ「アサデス。KBC」の番組内お天気コーナーの音楽を担当し「はじまりの空」を制作・演奏。

2020年からYouTube「おとたびチャンネル®」を開設。大迫淳英の世界を映像で発信。また豊島区「イケバス」のテーマ曲をプロデュース。車内を音楽で彩る。

これまでに日本の名曲（赤とんぼ、川の流れるように、など）を収録した「心の旅」など8枚のCDをリリース。2020年9月にリリースした初のクラシックアルバムCD「草枕」はクラシックCDチャート（音楽之友社調べ）で1位を10週間獲得（このCDのジャケットは加治木高等学校の先輩でいらっしゃる「天空の森」田島健夫社長とのご縁で、「天空の森」大自然の中でのショット。ジャケットのデザインやコピーなども大迫自身が制作）。2021年4月にはCD「Don Hears」(ななつ星のデザイナー 水戸岡鋭治氏×大迫淳英)を発売。銀座山野楽器CD取扱店で好評販売中。





〔関東龍門会〕令和2年度 事業報告

幹事長 海江田健司(昭63年卒)

〔活動報告〕

① 令和2年度総会が新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

② 議事として会計報告、年度事業計画等を討議しました。

③ 令和2年度「令和2年4月1日～令和3年3月31日」は、常任幹事会3回開催し、令和2年度の行事と会報発行を滞りなく遂行しました。

④ 母校発展のために寄与する同窓会活動の根幹事業として「龍門の櫛」の準備業務に向けて会議を行いました。

⑤ 本部同窓会が加治木高校在校生に対し実施している「コロナウイルス禍対応特別奨学金」へ、関東龍門会として20万円の寄付を実施しました。

⑥ 各同好会活動もコロナ禍で開催がままならず今年度後半以降の活動を目指しております。

⑦ 関東龍門会ホームページをリニューアルしスマートフォンからも見やすくしました。

(http://ryumonkai.com/)



◆ 関東龍門会事務局からのお願い

関東龍門会の運営は会員皆様方の会費と寄付で賄われており、それらは主として会報制作費と発送費用に充当されております。

◆ 年会費納入のお願い
年会費納入が絶対不可欠です。何卒、年会費納入にご協力をお願い致します。

◆ 年会費納入のお願い
年会費納入が絶対不可欠です。何卒、年会費納入にご協力をお願い致します。

◆ 関東龍門会への入会促進と 総会・懇親会への参加をお願い

関東龍門会の存在をご存知ない方やこの会報が届かない方がおられましたら、ご連絡ください。

連絡先は

幹事長 海江田健司 (TEL) 090-4662-3617

顧問 前原澄雄 (TEL) 080-5430-7488

副会長 木佐木学 (TEL) 090-2218-5384

顧問 山下憲男

副幹事長 西迫宏文 (株) ヒューマンウェア内、(TEL) 03-5282-7511

また、ご出身地毎の郷土出身者懇親会や、知人・ご親戚の方で同窓生がいらっしゃいましたら、是非とも呼びかけていただき、本総会・懇親会のご案内及び総会へお誘い合わせいただき、出来るだけ多数の同窓生の方々をご参加されるよう何卒宜しくお願い致します。

※学生会費・懇親会費全て無料です。気軽に参加ください。お待ちしております。

〔関東龍門会〕令和2年度 役員

(令和3年3月31日現在) ※ ( ) 内は卒年

- 〈会長〉 塩村[久永]朱美(昭49)
〈副会長〉 川井田信雄(昭45) 木佐木学(昭46) 若林[高山]凉子(昭46)
〈幹事長〉 海江田健司(昭63)
〈副幹事長〉 中村信二[監査兼任](昭45) 中園悦朗(昭46) 上加世田策(昭47)
〈監事〉 西迫宏文(昭55) 中野広行[会計担当兼任](昭58) 久保 裕(昭61)
〈常任幹事〉 松野下[田村]淳子(昭49) 最勝寺久尚(昭49) 徳永哲二(昭49)
堀之北[前原]かすみ(昭49) 山元真之(昭49) 佐藤[境田]安子(昭51)
淵邊善彦(昭58) 今市憲一郎(昭59) 川畑翔太郎(平17)
〈顧問〉 今村 彬(昭25) 酒匂昭男(昭26) 藤島[増田]義行(昭37) 海江田怜(昭40)
北野正英(昭40) 山下憲男(昭41) 國生幸一(昭42) 前原澄夫(昭43)
重村博文(昭43)
〈参与〉 徳永正幸(昭39) 相羽孝師(昭39) 藤崎[徳田]マリ子(昭40)
北原源平(昭41) 谷口幸一(昭42)
〈学年幹事〉(各期) 各学年・卒業期毎に数名(掲載省略)

※各事業担当責任者

- ☆(ゴルフ同好会) 川井田信雄(昭45) (補佐) 福村正美(昭53)
☆(囲碁同好会) 山元真之(昭49) (補佐) 田原孝志(昭49)
☆(会報編集委員会) 久保 裕(昭61) (補佐) 中野広行(昭58)
☆(国内派遣事業) 西迫宏文(昭55) (補佐) 川畑翔太郎(平17)
☆(SNS担当責任者) 海江田健司(昭63) (補佐) 西原真仁(平3)



令和2年度寄付者ご氏名(敬称略)

- (13年) 吉満肇 (23年) 市来秀夫 (24年) 細山田文樹 杉田宏 小城忠行
(26年) 本田一 加治木正紀 鈴木幸子 今吉孝夫 森田準之助 古川耕一 酒匂昭男
(27年) 松屋勝己 新村敏郎 窪田正視 (28年) 永井喜代子 井術美樹子
(30年) 岩元博明 立山勲 内田修 石田照子 (31年) 蓑毛長敦 (32年) 秋山淳子 肥後陽二
肥後玲子 窪田幸男 市来研志 坂元亨 (33年) 尾崎初代
(34年) 松本典郎 行村紀男 別府陸雄 小久保紀光 (35年) 森山耕二 鶴田観治郎
中山憲一郎 松金瑛子 本田勝 (36年) 了徳寺敏憲 松土士郎 (37年) 木村宏子
藤島義行 米増洋昭 下川原寿 石宇テルエ (39年) 河野正美 相羽孝師 柿本那孝
福村道幸 (40年) 堅山達一 森山浩二 海江田怜 高橋弘弘 北野正英 藤崎マリ子
(41年) 白濱礼子 大串久美子 萩原町子 中村順一 黒川幸治 小濱洋子 三浦佳代子
北原源平 海田京子 福重利夫 山下徳男 安田文二 (42年) 鎌田修 太田みどり
藤井豊幸 國生幸一 (43年) 遠藤光子 松永吉郎 石川良子 徳田修 重村博文
大久保令子 矢野雅子 永元幸雄 七反田篤夫 竹田茂隆 鷲山信 前原澄雄
(44年) 福元俊雄 岩井隆一 (45年) 中村信二 葉山恵 大村登喜子
(46年) 藤本ユミ子 木佐木学 若林凉子 木瀬久幸 (47年) 上原三枝子 小松郁子
(48年) 井下修 (49年) 本間万里子 松野下淳子 堀之北かすみ 最勝寺久尚 山元真之
田原孝志 塩村朱美 徳永哲二 (50年) 山下泰博 山口美智子 佐藤三重子 稲垣芳郎
(51年) 泉晴幸 佐藤安子 楠田靖紀 (52年) 金子智子
(53年) 矢野義信 (54年) 大岩根正浩 大澤悟 枝元真徹 (55年) 西迫宏文
(58年) 中野広行 淵邊善彦 (60年) 大槻瑞代 堀口賞一 (61年) 福田健 久保裕
(63年) 海江田健司 (H3) 西原真仁 (H17) 今村邦之 無記名1名

〈加治木高校同窓会本部〉

(卒年)

〔令和元年度 会計報告〕

(会計幹事) 中野広行(昭58年卒)

関東龍門会 令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

Table with columns: 科目, 決算, 支出の部, 予算, 決算. Rows include: 年度会費収入, 総会費収入, 寄付金収入, 雑収入, 預金利息, 総会費, 印刷関係費, 通信費, 旅費交通費, 事務費, 会議費, 広告費, 同好会費, 交際費, 支払手数料, 本部同窓会費, 龍門の櫛事業費, 雑費, 周年記念事業費積立金, 合計.

(注) 当会報による報告は、決算月日の関係上、令和元年度の会計報告です。令和2年度の会計報告は、令和3年度における承認手続きを経て、当会報令和4年号にて報告します。

〔備考〕

- (※1) 令和元年度年会費納入者は327名。
(※2) 令和元年度寄附者145名(寄附者ご氏名は当会報令和2年度号に掲載済)。
(※3) 印刷関係費は、会報、総会案内状、往復ハガキ、送付用封筒等の印刷費用です。
(※4) 周年記念事業費積立金は、母校の周年記念事業の協賛を目的として特別会計口座で別途管理しております。令和元年度の積立は見送られております。

〔編集後記〕

昨年の総会中止の影響もあり、皆様の近況を掲載して「同窓生だより」をお届けできず、紙面も狭小しました事申し訳ありませんでした。

しかし、今号も新大学生の中尾颯吾さんをはじめ、新社会人の林拓真さん、社会人2年目の吉村謙吾さんのこの時代を生きた若い世代の皆さんの声をお届けできた事、大変うれしく思います。

また、川原裕明校長先生からは、スナップ写真を含め、文武両道で変な世の中ではないですが、心穏やかに、また皆様に楽しい出来る事を楽しみにしております。

◆ 今号の『あの人を訪ねて』では芸術の世界で大活躍の大道淳英さんの貴重な御経験を紹介して頂き大変感謝しております。

◆ 直接お会いする事もままならない大変な世の中ではありますが、心穏やかに、また皆様に楽しい出来る事を楽しみにしております。

今号は左記の方が編集作業に携わりました。西迫宏文 中野広行 海江田健司

編集責任者 久保裕 (昭和61年卒・38期)